



Cisco EPN Manager 4.1 のインストール

この章では、Cisco EPN Manager 4.1 のインストールを計画し、インストールに必要なすべての前提条件を満たしていることを確認するために必要な情報を示します。また、高可用性を持たない標準的な環境に Cisco EPN Manager 4.1 をインストールする手順についても説明します。高可用性については、[Cisco EPN Manager 4.1 の高可用性](#)を参照してください。

- [設置の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 4.1 のインストールパス \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [標準環境 \(非 HA\) での Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(4 ページ\)](#)
- [高可用性展開での Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(6 ページ\)](#)

設置の概要

Cisco EPN Manager 4.1 は、次の手順に従って新規インストールとしてインストールできます。

1. Cisco EPN Manager 4.0 は、仮想マシンまたはベアメタルサーバのいずれかにインストールします。

[Cisco EPN Manager 4.0 インストールガイド \[英語\]](#) を参照してください。

2. このガイドの手順の説明に従って、Cisco EPN Manager 4.1 UBF をインストールします。

次のトピックでは、標準展開および高可用性展開で Cisco EPN Manager 4.1 UBF をインストールするための情報と手順について説明します。

- [Cisco EPN Manager 4.1 のインストールパス \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(非 HA\) \(5 ページ\)](#)
- [プライマリサーバとセカンダリサーバへの Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(HA 展開\) \(8 ページ\)](#)



- (注) インストール手順を開始する前に、インストールに関する重要な情報や問題について [リリースノート](#) を確認してください。

Cisco EPN Manager 4.1 のインストールパス

次の表に、以前のバージョンから Cisco EPN Manager 3.1 へのインストールに有効なパスを示します。

現在の Cisco EPN Manager バージョン	Cisco EPN Manager 4.1 へのインストールパス
Cisco EPN Manager 4.0	Cisco EPN Manager 4.0 > 4.1
Cisco EPN Manager 4.0.1	Cisco EPN Manager 4.0.1 > 4.1
Cisco EPN Manager 4.0.2	Cisco EPN Manager 4.0.2 > 4.1

Cisco EPN Manager バージョンのインストールの前提条件と手順については、関連する [インストールガイド](#) を参照してください。

ポイントパッチのインストール手順については、[cisco.com](#) のソフトウェアダウンロードサイトのパッチファイルに付属の readme ファイルを参照してください。

Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件



- (注) Cisco EPN Manager 4.1 のインストールは、Cisco EPN Manager 4.0 OVA/ISO のインストールと、それに続く Cisco EPN Manager 4.1 UBF のインストールで構成されます。

Cisco EPN Manager 4.1 をインストールする前に、次のタスクを実行する必要があります。

- Cisco EPN Manager 4.0 を仮想マシンまたはベアメタルサーバのいずれかにインストールしていることを確認します。
[Cisco EPN Manager 4.0 インストールガイド \[英語\]](#) を参照してください。
- [ライセンス \(3 ページ\)](#)
- [自動クライアント ログアウトの無効化](#)

ライセンス

Cisco EPN Manager には、初回インストールで自動的にアクティブ化される 90 日間の試用ライセンスが含まれています。試用期間を超えてアプリケーションを使用するには、次に示すように、実稼働環境と実稼働以外の環境の両方に必要な Cisco EPN Manager ライセンスを取得してインストールする必要があります。

実稼働環境の場合：

- 基本ライセンス（必須）
- スタンバイライセンス（オプション）：冗長性構成で構成された 2 台の Cisco EPN Manager サーバを使用して高可用性展開を行う場合は、このライセンスを取得します。
- Cisco EPN Manager が管理するデバイスのタイプと対応する数の管理用ライセンス。

実稼働以外の環境（ラボ検証環境や開発環境など）については、Cisco EPN Manager のラボインストールごとに Cisco EPN Manager ラボライセンスを取得してインストールしてください。ラボライセンスは、冗長性（HA）、無制限の管理範囲を含むすべての Cisco EPN Manager のオプションを対象としています。

ライセンスのコピーは作成しないでください。

Cisco EPN Manager ライセンスを購入するには、最寄りの営業担当者にお問い合わせください。

Cisco EPN Manager で使用できるライセンスのタイプの詳細については、『[Cisco Evolved Programmable Network Manager User and Administrator Guide](#)』のライセンスの表示と管理に関する情報を参照してください。

自動クライアント ログアウトの無効化

一定期間クライアントがアクティブでない場合、自動的にログアウトされることがあります。インストール中にログアウトしないようにするには、次のように、システム設定でアイドルユーザの自動ログアウトを無効にすることを推奨します。

-
- ステップ 1 **[Administration]** > **[Settings]** > **[System Settings]** > **[Server]** の順に移動します。
 - ステップ 2 **[Global Idle Timeout]** セクションで、**[Logout all idle users]** チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 3 システム設定への変更を保存するように促すメッセージが表示されたら、**[OK]** をクリックします。
 - ステップ 4 **[Save]** をクリックします。
 - ステップ 5 Web GUI ウィンドウの右上にある歯車のアイコンをクリックし、**[My Preferences]** をクリックします。**[ユーザアイドルタイムアウト (User Idle Timeout)]** で、**[アイドルユーザをログアウトする (Logout idle user)]** チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 6 **[保存 (Save)]** をクリックします。
 - ステップ 7 Cisco EPN Manager からログアウトして、ログインし直します。
-

標準環境（非 HA）での Cisco EPN Manager 4.1 のインストール

標準環境（非高可用性）で Cisco EPN Manager 4.1 をインストールするには、次の手順に従います。

1. 「[Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行していることを確認します。
2. [サーバへの Cisco EPN Manager 4.1 インストールファイルの配置](#)。
3. [Cisco EPN Manager 4.1 のインストール（非 HA）](#)。
4. すべてのデバイスのインベントリ収集を実行して、データベースと同期させます。「[すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）](#)」を参照してください。

外部の認証および承認を使用している場合は、インストール後に、最新のアップデートを取得するために、ユーザタスク情報を AAA サーバにエクスポートする必要があります。詳細については、[Cisco Evolved Programmable Network Manager ユーザおよび管理者ガイド \[英語\]](#) 参照してください。

サーバへの Cisco EPN Manager 4.1 インストールファイルの配置

この手順では、ubf インストールファイルをローカルマシンにダウンロードし、ローカルマシンから Cisco EPN Manager サーバにアップロードする方法を説明します。



(注) インストールファイルをダウンロードするには、Cisco.com のアカウントが必要です。

ステップ 1 「[Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行していることを確認します。

ステップ 2 必要な ubf ファイルをローカルマシンにダウンロードします。

1. [Cisco.com のソフトウェアダウンロードサイト](#)に移動します。
2. Cisco EPN Manager マイナーリリースファイル（cepn4.1-buildXXX.ubf 形式）を見つけます。
3. ローカルマシンにファイルをダウンロードします。

ステップ 3 ファイルがローカルサーバにダウンロードされたら、チェックサム（MD5）と Cisco.com で入手可能なチェックサムを比較します。

ステップ 4 Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザとしてログインします。

ステップ 5 ローカルマシンから Cisco EPN Manager サーバに ubf ファイルをアップロードします。

1. 左側のサイドバーメニューから、[Administration] > [Software Update] を選択します。
2. ページ上部の青色の [Upload] リンクをクリックします。
。
3. [Upload Update] ダイアログボックスで、[Browse] をクリックして、ダウンロードしたファイルに移動します。
4. [OK] をクリックしてファイルをサーバにアップロードします。

Cisco EPN Manager 4.1 が正常にアップロードされると、[Files] タブの下にソフトウェアが表示されます。

Cisco EPN Manager 4.1 のインストール (非 HA)

標準環境 (非高可用性) に Cisco EPN Manager 4.1 をインストールするには、次の手順に従います。

- ステップ 1** 左側のサイドバーから、[Administration] > [Software Update] を選択します。
- ステップ 2** [Software Update] ページの EPN Manager 4.1 に関連付けられている [Install] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** インストールを続行するには、確認メッセージのポップアップ ウィンドウで [はい (Yes)] をクリックします。
(注) インストールが完了すると、サーバが再起動します。
- ステップ 4** 既存のファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、[Yes] をクリックします。
インストールが成功すると、ステータスが [インストール済み (Installed)] に変わります。Cisco EPN Manager が自動的に再起動し、Cisco EPN Manager の Web GUI にしばらくアクセスできなくなります。
- ステップ 5** Cisco EPN Manager サービスのステータスを確認します。
 1. Cisco EPN Manager サーバとの SSH セッションを開始し、Cisco EPN Manager CLI 管理者ユーザとしてログインします。
 2. ncs status コマンドを実行して、少なくともヘルスマニタ、データベース、NMS、SAM デーモン、DA デーモン、コンプライアンスエンジンのサービスが稼働していることを確認します。最適な Cisco EPN Manager 機能を使用するには、すべてのサービスが稼働している必要があることに注意してください。
- ステップ 6** Cisco EPN Manager の Web GUI にアクセスできる場合は、ログインして、[Software Update] ページで Cisco EPN Manager マイナーリリースのステータスが [Installed] になっていることを確認します。
 1. 左側のサイドバーから、[管理 (Administration)] > [ソフトウェアアップデート (Software Update)] を選択します。

2. [Cisco EPN Manager Minor Release] が [Updates] タブの下に [Installed] として表示されていることを確認します。また、ubfファイル（cepnm4.1-buildXXX.ubfの形式）が [Files] タブに表示されていて、[In Use] ステータスが [Yes] になっていることを確認します。

次のタスク



- (注) Cisco EPN Manager マイナーリリースをインストールすると Cisco EPN Manager が再起動されるため、同期クロック操作でのサービスの再起動は無視できます。

すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）

以前のバージョンの Cisco EPN Manager をすでに使用している場合（つまり、新規インストールではない場合）、デバイスで同期操作を実行する必要があります。同期操作では、デバイスの物理インベントリと論理インベントリを収集し、その情報をデータベースに保存するように Cisco EPN Manager に指示します。

ステップ1 [Monitor] > [Network Devices] を選択します。

ステップ2 すべてのデバイスを選択し、[同期 (Sync)] をクリックします。

高可用性展開での Cisco EPN Manager 4.1 のインストール

HA 環境で Cisco EPN Manager 4.1 をインストールするには、次の手順に従います。

1. 一般インストールおよび HA インストールの前提条件タスクの実行。
2. HA 設定の削除。
3. サーバへの Cisco EPN Manager 4.1 インストールファイルの配置（HA 展開）。
4. プライマリサーバとセカンダリサーバへの Cisco EPN Manager 4.1 のインストール（HA 展開）。
5. すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）。



- (注) 外部の認証および承認を使用している場合は、インストール後に、最新のアップデートを取得するために、ユーザタスク情報を AAA サーバにエクスポートする必要があります。

一般インストールおよび HA インストールの前提条件タスクの実行

HA のインストールを開始する前に、次の手順を実行します。

1. プライマリサーバとセカンダリサーバの両方で「[Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行します。

HA 設定の削除



(注) このプロセスは、サーバが HA 設定に関連付けられている場合にのみ必要です。

- ステップ 1 「[Cisco EPN Manager 4.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行していることを確認します。
- ステップ 2 プライマリサーバの Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザとしてログインします。
- ステップ 3 左側のサイドバーから、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [ハイ アベイラビリティ (High Availability)] の順に選択します。
- ステップ 4 左側の [HA 設定 (HA Configuration)] をクリックします。
- ステップ 5 [削除 (Remove)] をクリックします。
- ステップ 6 削除操作が完了したら、[設定モード (Configuration Mode)] フィールドに [HA が設定されていません (HA Not Configured)] と表示されていることを確認します。

サーバへの Cisco EPN Manager 4.1 インストールファイルの配置 (HA 展開)

はじめる前に

HA を有効にしたときに作成したパスワード (認証キー) があることを確認します。セカンダリサーバにパッチをインストールするときに必要です。

- ステップ 1 「[HA 設定の削除](#)」の説明に従い、HA 設定を削除していることを確認します。
- ステップ 2 プライマリサーバで、Cisco EPN Manager 4.1 ubf ファイルをアップロードします。「[サーバへの Cisco EPN Manager 4.1 インストールファイルの配置](#)」の手順に従います。
- ステップ 3 Cisco EPN Manager 4.1 ubf ファイルをセカンダリサーバにアップロードします。(プライマリサーバにアップロードされてインストールされたものと同じファイルを使用します。
 1. ブラウザに次の URL を入力することにより、セカンダリサーバの HM Web ページにログインします。
https://serverIP:8082
ここで、*serverIP* はセカンダリサーバの IP アドレスまたはホスト名です。

1. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
2. [ヘルス モニタ (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリサーバのソフトウェアアップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
3. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
4. ウィンドウ タイトルの下にある [アップロード (Upload)] リンクをクリックし、ubf ファイルを参照して、[OK] をクリックします。

ubf ファイルのアップロードが成功すると、[Files] タブの下にファイルが表示されます。

次のタスク

[プライマリサーバとセカンダリサーバへの Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(HA 展開\)](#)。

プライマリサーバとセカンダリサーバへの Cisco EPN Manager 4.1 のインストール (HA 展開)

はじめる前に

- HA を有効にしたときに作成したパスワード (認証キー) があることを確認します。このパスワードは、セカンダリサーバで Cisco EPN Manager マイナーリリースファイルをインストールするために必要になります。
- 進行中のバックアップがないことを確認します。

これにより、フェールオーバー後にコンプライアンスサーバがセカンダリサーバ上で起動して稼働するようになります。

ステップ 1 「[Cisco EPN Manager 4.1 のインストール \(非 HA\)](#)」の説明に従い、Cisco EPN Manager 4.1 をプライマリサーバにインストールし、インストールの内容を確認します。インストール後に、プライマリサーバが自動的に再起動し、Web GUI にしばらくアクセスできません。

ステップ 2 プライマリサーバとセカンダリサーバの両方でハードウェアクロックと NTP クロックを同期し、各サーバのクロックが相互に同期されていることを確認します。

(注) Cisco EPN Manager マイナーリリースをインストールすると Cisco EPN Manager が再起動されるため、同期クロック操作でのサービスの再起動は無視できます。

ステップ 3 セカンダリサーバに Cisco EPN Manager 4.1 をインストールします。

1. ブラウザに URL (<https://serverIP:8082>) を入力して、セカンダリサーバの HM Web ページにログインします。
ここで、*serverIP* はセカンダリサーバの IP アドレスまたはホスト名です。
2. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。

3. [ヘルス モニタ (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリ サーバのソフトウェアアップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
4. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
5. [Software Update] ページの Cisco EPN Manager マイナーリリースに関連付けられている [Install] ボタンをクリックします。
6. インストールを続行するには、確認メッセージのポップアップ ウィンドウで [はい (Yes)] をクリックします。正常にインストールされると、ステータスが [インストール済み (Installed)] に変わり、セカンダリ サーバが自動的に再起動します。

ステップ 4 セカンダリ サーバが再起動した後、セカンダリ サーバでインストールを確認します。

1. セカンダリサーバで SSH セッションを開始して、Cisco EPN Manager CLI 管理者ユーザとしてログインします。
2. `ncs status` コマンドを実行して、少なくともヘルスマニタ、データベース、NMS、SAM デーモン、DA デーモン、コンプライアンスエンジンのサービスが稼働していることを確認します。最適な Cisco EPN Manager 機能を使用するには、すべてのサービスが稼働している必要があることに注意してください。
3. Web GUI にアクセスできたら、セカンダリ サーバの [HM Web] ページでインストールとバージョンを確認します。ブラウザに次の URL を入力します。 <https://serverIP:8082>
ここで、**serverIP** はセカンダリ サーバの IP アドレスまたはホスト名です。
4. 認証キーを入力して、[Login] をクリックします。
5. [ヘルス モニタ (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリ サーバのソフトウェアアップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
6. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
7. [Files] タブで、Cisco EPN Manager マイナーリリースファイル (`cepnm4.1-buildXXX.ubf` 形式) が表示されていて、[In Use] ステータスが [Yes] になっていることを確認します。

ステップ 5 次のコマンドを実行して、すべてのサービスが起動していて実行されていることを確認します。

```
ncs status
```

ステップ 6 プライマリ サーバで、高可用性を有効にし、プライマリ サーバの HA のステータスが [プライマリ アクティブ (Primary Active)] であることを確認します。

1. 高可用性を有効にします。
 1. Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザとしてログインします。
 2. 左側のサイドバーメニューから、[Administration] > [Settings] > [High Availability] の順に選択します。
 3. 左側の [HA Configuration] をクリックして、セカンダリサーバの IP アドレス、セカンダリサーバの認証キー、および Cisco EPN Manager が HA のステータス変更通知を送信する電子メールアドレスを入力します。
 4. HA セットアップで仮想 IP アドレッシングを使用している場合 (プライマリ サーバとセカンダリサーバが同じサブネットにある場合) は、[仮想 IP の有効化 (Enable Virtual IP)] チェックボックスをオンにして、仮想 IP アドレスを入力します。

5. 「HA 設定の準備状況の確認」で説明されているプロセスに従って、HA の準備状況を確認します。
 6. [保存 (Save)] をクリックして、サーバが同期されるまで待ちます。
 7. 設定モードが [HA 対応 (HA Enabled)] になっていることを確認します。
2. プライマリ サーバの HA ステータスを確認します。
 1. 左側の [HA ステータス (HA Status)] をクリックします。
 2. [現在のステータス モード (Current State Mode)] に [プライマリ アクティブ (Primary Active)] と表示されていることを確認します。

ステップ 7 セカンダリ サーバの HA ステータスが [セカンダリ同期中 (Secondary Syncing)] になっていることを確認します。

1. ブラウザに URL (<https://serverIP:8082>) を入力して、セカンダリサーバの HM Web ページにログインします。
ここで、**serverIP** はセカンダリ サーバの IP アドレスまたはホスト名です。
2. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
3. [現在のステータス モード (Current State Mode)] が [セカンダリ同期中 (Secondary Syncing)] (緑色のチェックマーク付き) になっていることを確認します。

HA 設定の準備状況の確認

HA 設定時に、HA に関連する他の環境パラメータ (システム仕様、ネットワーク構成、サーバ間の帯域幅など) によって HA 設定が決定されます。

15 のチェックがシステムで実行され、エラーや障害なく HA 設定が完了したことが確認されます。準備状況の確認機能を実行すると、チェックリストの名前および対応するステータスが、該当する場合は推奨事項とともに表示されます。



(注) **確認準備機能** は HA 設定をブロックしません。一部のチェックに合格しない場合でも、HA を設定できます。

HA 設定の準備状況を確認するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** 管理者権限を持つユーザ ID とパスワードを使用して Cisco EPN Manager にログインします。
- ステップ 2** メニューから、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [ハイ アベイラビリティ (High Availability)] の順に選択します。Cisco EPN Manager によって HA ステータス ページが表示されます。
- ステップ 3** [HA 設定 (HA Configuration)] を選択します。
- ステップ 4** [セカンダリ サーバ (Secondary Server)] フィールドにセカンダリ サーバの IP アドレスを入力し、[認証キー (Authentication Key)] フィールドのセカンダリの認証キーを入力します。

ステップ 5 [準備状況の確認 (Check Readiness)] をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが開き、システム仕様およびその他のパラメータが表示されます。画面には、チェックリスト項目の名前、ステータス、影響、推奨事項の詳細が示されます。

その下に、準備状況の確認に使用されたチェックリストのテスト名と説明のリストが表示されます。

表 1: チェックリストの名前と説明

チェックリストのテスト名	テストの説明
システム - CPU 数の確認 (SYSTEM - CHECK CPU COUNT)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方の CPU 数を確認します。 両方のサーバの CPU 数は要件を満たす必要があります。
システム - ディスク IOPS の確認 (SYSTEM - CHECK DISK IOPS)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方のディスク速度を確認します。 必要な最小ディスク速度は 200 Mbps です。
システム - RAM サイズの確認 (SYSTEM - CHECK RAM SIZE)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方の RAM サイズを確認します。 両方のサーバの RAM サイズが要件を満たしている必要があります。
システム - システム ディスク サイズ (SYSTEM - CHECK DISK SIZE)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方のディスク サイズを確認します。 両方のサーバのディスク サイズが要件を満たしている必要があります。
システム - サーバへの ping 確認 (SYSTEM - CHECK SERVER PING REACHABILITY)	プライマリ サーバが ping を介してセカンダリ サーバに到達できることを確認します。
システム - OS 互換性の確認 (SYSTEM - CHECK OS COMPATABILITY)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの OS バージョンが同じであることを確認します。
システム - ヘルス モニタのステータス (SYSTEM - HEALTH MONITOR STATUS)	ヘルス モニタ プロセスがプライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方で実行されているかどうかを確認します。
ネットワーク - ネットワーク インターフェイスの帯域幅確認 (NETWORK - CHECK NETWORK INTERFACE BANDWIDTH)	インターフェイス eth0 の速度がプライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方で推奨されている 100 Mbps に一致していることを確認します。 このテストでは、プライマリ サーバとセカンダリ サーバ間でのデータ送信によるネットワーク帯域幅の測定は行いません。

ネットワーク - データベース ポートの開閉について ファイアウォールの確認 (NETWORK - CHECK FIREWALL FOR DATABASE PORT ACCESSIBILITY)	データベースポート 1522 がシステムファイアウォールで開いていることを確認します。 このポートが無効になっていると、テストは iptables リストで 1522 の権限を付与します。
データベース - オンラインステータスの確認 (DATABASE - CHECK ONLINE STATUS)	データベースファイルのステータスがオンラインになっており、プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方でアクセス可能であることを確認します。
データベース - メモリ ターゲットの確認 (DATABASE - CHECK MEMORY TARGET)	HA セットアップの「/dev/shm」データベース メモリ ターゲット サイズを確認します。
データベース - リスナーのステータス (DATABASE - LISTENER STATUS)	データベースのリスナーがプライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方で稼働中であることを確認します。 障害が発生した場合、テストはリスナーを起動し、ステータスを報告しようとします。
データベース - リスナー設定ファイルの破損確認 (DATABASE - CHECK LISTENER CONFIG CORRUPTION)	すべてのデータベースインスタンスがデータベースリスナー設定ファイル「listener.ora」の下にあることを確認します。
データベース - TNS 設定ファイルの破損確認 (DATABASE - CHECK TNS CONFIG CORRUPTION)	データベース TNS リスナーの設定ファイル「tnsnames.ora」の下にすべての「WCS」インスタンスが存在していることを確認します。
データベース - TNS 到達可能性のステータス (DATABASE - TNS REACHABILITY STATUS)	プライマリ サーバとセカンダリ サーバの両方で TNSPING が成功していることを確認します。

ステップ 6 すべてのパラメータのチェックが完了したら、パラメータのステータスを確認し、[クリア (Clear)] をクリックしてウィンドウを閉じます。

(注) 準備状況の確認中のフェールバック イベントとフェールオーバー イベントは、[アラームとイベント (Alarms and Events)] ページに転送されます。設定障害イベントは [アラームとイベント (Alarms and Events)] ページにはありません。